こんぺき

静岡市稲門会
会報　第９号
2022.1.15

早慶戦・神宮の雪辱は草薙で
第四回　オータムフレッシュリーグ in 静岡

２０２１年東京六大学野球秋季リーグ戦の優勝争いは早慶戦最終戦に持ち込まれ、結果は３対３の引き分けで、勝ち点に勝る慶応の優勝となりました。その約１か月後の草薙球場での早慶戦は雪辱に燃える多数の校友たちで埋まりました。

校旗を持って応援する校友たち。

今年で第四回目となる「オータムフレッシュリーグin静岡」。静岡市稲門会も支援する本大会は、大学や地元高校野球部の若手育成を目指した大会です。出場校は大学が早稲田、慶応、東京、明治、静岡、東海など、地元高校が静岡、静岡商業、清水桜が丘、聖隷クリストファーなど強豪校が出そろいました。11月21日、草薙球場で行われた早慶戦には、当会の陰山会長、吉田幹事長など役員の他、多数の校友たちも駆けつけ熱い声援を送りました。結果は次年度に期待を持たせる8対3の勝利となりました。

コロナ禍の中こそ連携を
陰山体制を継続

令和3年度総会は、5月開催の予定でしたが、コロナ禍のため、文書による総会となりました。議題の任期満了による役員改選につきましては、陰山正敏会長をはじめとする前年度役員全員が継続就任し、事業体制を堅持することになりました。また収支決算では、学生支援のための寄金を行ったことなどが報告されました。以下陰山正敏会長のメッセージです。

会長　陰山正敏（昭和44年文）

明けましておめでとうございます。昨年の総会で引き続き会長職を仰せつかりました陰山正敏です。2年にわたるコロナ禍は世界各国の社会、経済全般にわたり大きなダメージを与え、未だに治まる気配もありません。当稲門会の活動もほとんどが中止や延期を余儀なくされてきました。こうした中、様々な分野においてコロナ対策に取り組む校友の皆様方に対し、深く敬意と感謝の意を表する次第です。また大学側からの困窮学生支援の要請に対しても、多くの校友の協力をいただき、誠に有難うございました。苦しい時こそ連携を深める稲門会でありたいと思います。本年も残念ながら、新年会中止のスタートとなりましたが、一同に会し声高らかに校歌を歌う日の近からんことを心より願っております。

令和4年稲門会事業予定

◇2月　新年会は中止します。
◇5月13日　令和4年度総会
（グランディエール）
◇7月29日早慶ビアパーティー
（中島屋グランドホテル）
◇8月6日　静岡県稲門祭
（浜松市・遠鉄ホテル）
◇9月9日　早慶麻雀大会
（麻雀荘駅南）
◇10月29日　早慶ゴルフ大会
（菊川カントリークラブ）
◇役員会随時開催◇会報発行

静岡市議選　ベテラン、中堅、新鋭の校友市議が勢ぞろい

市政推進とともに厳しいチェックを

2021年3月28日の静岡市議選の結果、校友市議が3名となりました。7期目となる石上顕太郎氏（静岡市稲門会顧問）、5期目となる丹沢卓久氏（同顧問）、今回初当選の白濱史教氏（同事務局長）で、いずれも自民党市議団に所属しています。人口減少が続き、やや元気のない静岡市です。市政の推進役として、また行政の厳しいチェック役として、さらには行政と市民を結ぶパイプ役として大いに活躍されることを期待します。3市議の静岡市政に臨む想いを伺いました。

石上顕太郎氏

（葵区・昭52 理工卒）

井上光一会長の教え胸に

大学卒業後に勤務した静岡県中小企業団体中央会で、井上光一会長からいくつかの教えをもらいました。

そのうちの一つに「良き師を持て、良き兄を持て、そして良き友を持て」という言葉です。

「二師三兄五友」の教えですが、それができれば充実した人生が送れるぞという教訓でもあります。ただし、それを実現するためには、自分自身が日々研鑽につとめるという言外の意味があります。中央会を卒業して27年目を迎える今も、井上会長の言葉を胸に、日々努力しております。

会派会長として挨拶する石上市議

丹沢卓久氏

（葵区・平5政経卒）

市民に伝わる言葉で

大隈重信公は「言葉」を大切にした指導者でありました。現代の政治家に求められるのは、まずは「言葉」の重みを深く認識することだと思います。

議会で質問する丹沢市議

そして、勢いに任せた放言や、虚飾だらけの長口舌ではなく、物事の本質を端的に伝える「言葉」で語ることがとても大切だと思います。静岡市政においても同様です。市民に伝わる「言葉」を心掛け、まっとうな議論をしていきたいと思います。

白濱史教氏

（駿河区・平20政経卒）

笑顔あふれる静岡目指して

日頃より事務局として大変お世話になっております。2回の落選、苦節8年の浪人生活を経て、このたび初当選させていただきましたのも、ひとえに静岡市稲門会の皆さまのご指導のおかげです。本当にありがとうございました。皆さまからの負託に応えるべく、with コロナ、アフターコロナを見据えた市政展開ができるようにしっかりと取り組んでいきたいと思います。安心・安全で世界に輝く「笑顔あふれる静岡市」にするため、今後とも引き続きのご指導と稲門会活動へのご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

総務委員会で質問する白濱市議

コロナに負けず頑張ってます。校友の職場を訪問

時代要請のテレワーク

小豆川裕子さん（昭56 文卒）

常葉大学経営学部教授・学科長

超多忙の中、時間を空けていただき、常葉大学草薙キャンパスでお話を伺いました。

多忙の要因は、小豆川さんが働き方改革や地方創生、女性参画社会などの手段として研究してきたテレワーク論が、コロナ禍の中、一挙にブレイクしたためとのことです。

小豆川さんは早稲田大学第一文学部心理学科を卒業後、広告代理店に就職。自分の特性をより生かすためニッセイ基礎研究所研究員に移り、さらに筑波大学、東京大学博士課程で工学系社会科学の研究を行います。その後NTTシステム科学研究所主任研究員等を歴任後、NTTデータ経営研究所に移り、受託研究で女性と仕事についての研究に取り組みます。ここから小豆川さんの研究は働き方改革、地方創生へと広がり、また深まっていったとのことです。常葉大学へは2017年に富士キャンパスの准教授として赴任、21年4月現職となりました。

小豆川さんによると、現在コロナ禍でテレワークはバブルのような状態になっていますが、テレワークそのものは2003年の政府の「eジャパン戦略」などの頃から注目されているものです。当時から比べれば、モバイルをはじめとするIT環境は飛躍的に発展しており、今後ますます発展の余地があります。まさに小豆川さんは、テレワーク戦略の草創期から関わっておられることになります。常葉大学は素晴らしい人材を静岡に連れてきてくれたものです。

現在、小豆川さんは政府関係（総務省、厚生労働省、観光庁、内閣官房など）の様々な委員会の委員や静岡県、静岡市、富士市、静岡商工会議所等の各種委員も務めております。多忙なわけですね。

健康管理は時間が取れないのが悩みですが、ジムでの筋トレなどで基礎体力の充実に力をいれているとのことです。

充実した会社人生

大髙圭介氏（昭45 商卒）

花菱建設株式会社　顧問

（静岡市稲門会副会長）

葵区西千代田の本社ビルに伺いました。受付嬢の静かな気配りなどから会社の気品が感じられます。

大髙さんは大学卒業時、実家の事情で地元就職が必須となり、知人の紹介で同社に入社しました。

花菱建設は昭和22年創業、県内を事業エリアとする建設会社です。アスファルト舗装工事を中心に、種々の景観舗装や道路築造・改良等の社会基盤整備事業を行い、地域の暮らしや経済活動を支えてきています。

大髙さんは経理担当と言われ入社したのですが、入社後10年近く現場に携わりました。この経験が後々役に立ったと言います。その後経営全体に関わる業務を担うようになり、令和2年顧問となるまで、永く専務取締役として会社を支え発展させてきました。

公共事業が中心となる業務ですから、迅速な施工や品質管理、信頼性が極めて重要となります。そのかじ取り役を続けると同時に、県道路舗装協会の副会長やアスファルト合材協会常任幹事長なども務め、業界全体の発展にも寄与してきました。

大髙さんは、「私は会社がすべての人間」と言います。これは会社や仕事から得たもの、人脈や生きがい、人生への様々な考え方などが自分にとって非常に大切な成長の糧となっているとの意味でもあるようです。

用宗の実家は江戸時代からの旧家。町内会長なども務め、地域とのつながりも強固です。業務最前線から退き若干時間ができ、ゆっくり旅でもしたいとのことでした。

２０２０東京オリンピック奮戦記

２７歳真夏の小冒険

静岡放送報道制作局スポーツ部
中村壮太（平成28 商卒）

初めまして。２０１６年卒の中村壮太と申します。静岡放送に入社して６年目で、現在はスポーツのディレクターをしています。

私は今年の夏、東京オリンピックの応援として１か月半、ＪＮＮ系列のＴＢＳテレビに出向していました。

◇原稿を書きまくる日々

この話をすると、「取材大変だった？」「金メダリストに会えた？」と、皆さんキラキラした目で聞いてくださいますが、私はニュース制作の担当となったため、赤坂ＴＢＳ内に缶詰め状態でした。各オリンピック会場から集められた競技映像をチェックし、ひたすら原稿を書く毎日でした。２～３競技を同時にチェックしながら原稿を書くこともありました。

◇大人気ピカチュウ

その大量の映像は「ＩＢＣ（国際放送センター）」から送られてきます。ここに世界各国１００以上の放送局が基地を置き、国際映像の伝送や取材活動などを行いました。日本の放送局も自局のブースを構え仕事をしていましたが、そこで目に付いたのが「We don't have PINS（ピンバッジはありません）」の文字。

実は、お礼などで配る自社のピンバッジを皆さん持参していて、それを交換するのがオリンピックでの慣わし。中でも日本のものは非常に人気で、仕事中でも「交換してくれ」と勝手に入ってくる人もいるため、張り紙をしているのだそうです。

特に人気なのがテレビ東京の「ピカチュウピンバッジ」。会場内でトラブルが起きても、ピカチュウを出せば全てが丸く収まる、なんていう話も。

ちなみに中には、海外メディア用にコンビニやレストランなども作られていて、「１６００円するのに美味しくないハンバーガー」はＳＮＳでも話題になっていました。（実際に食べましたが、味は普通、中身は冷たかったです）

◇スポーツを愛する人たちの努力

出向期間中は赤坂のホテルに滞在していました。そこは海外の放送局も宿泊する「メディアホテル」となっていたため、エレベーターでは常に海外の方と一緒に。一番オリンピックを感じる場所だったかもしれません。

コロナ禍の中、早くから開催可否について論議を呼んだ東京五輪でしたが、無事に終了できたのは、選手は勿論、運営スタッフ、ボランティア、報道陣などスポーツを愛する多くの人たちの頑張りによるものと思います。私自身は、ＴＢＳから殆ど出られず、国際放送センターには見学に１回行っただけ。開会式では国立競技場の花火が赤坂からわずかに見えただけでしたが、東京で開催されたオリンピックを東京で迎え、放送局の一員として携われたことは、大きな財産になりました。

◆「こんぺき」は１年１回の発行です。常に会員情報を募集しています。情報は以下の事務局まで。

事務局　〒422-8072
静岡市駿河区　小黒１－４－33
Tel　080-3820-8282（白濱）
Mail　shirahama23@gmail.com